

笑ふて下さるなぢやが、アリや戀煩ひぢや、それもな、お前が世話して呉れたおもよな——、アノ女中に惚れて居るのぢや、可愛い者ぢやないか、今の時節に戀煩ひをするやうな、氣の小さい者ぢやから、私は可愛ふてなりませんのぢや、ところでなア、お医者さまの仰しやるには、この御病人は薬を浴せる程、飲ましたとて駄目ぢや、先づまアおもよさんを煎じて飲ませるより、外に妙薬がないと斯う仰しやるのぢや」「へエー、すると何ですか旦那さん、おもよどんを煎じるといふ事になると、随分大きな薬土瓶が要りますがな……」「何を云ひなさる、さうぢやない、おもよを呼戻して、俵の傍に付けるのぢや、つまり看病をさせるのぢや、さうすると、この病氣も直るといふ事で、それもな餘程衰弱がひどいから、明日の晩までに、おもよさんが来れば間に合ふが、明後日になつたら、請合ふ事が出来んと斯う仰しやるのぢやデ、お前大儀ながら、今から丹波まで行て、この譯を話しをしておもよを明日の晩までに連れて来て下さらんか、何うぢやな、甚平さん、承知をして下され」「それは旦那さん御無理でやす、丹波は貝野村まで明日の晩まで行て来られるものぢやない、少なくとも三日や四日は掛ります」「そんな事は私しかして知つて居ます、けども其うせんと俵が死んで仕舞ひますのやで、是非行て来て貰ひたい、その代り、明日の晩までに間に合せて下されたら、お前さんに三千圓の御禮をしますから、行て来てお呉れ」「エー何ですて——、お禮が三千圓つまり千圓が三ツですなア、三千圓といふと……お禮が三千圓か、えらいものやなア、ウーウーン……」「何を前は呻つ

て居るのや」「エー旦那さま、宜しい、この甚平の身體に三千圓といふ金儲けは、どうせ生涯出来そうはないから、一ツ足が折れるか、心の臓が破裂するか、兎に角も明日の晩までに間に合ふやうに、今から行きます」「行て下さるか、そりや有難い……オイお竹や、清や、番頭どん、サア皆来てお呉れ、甚平さんが出立や……甚平さん、それでは大儀ぢやが、早うな。就てはお前さん、家へ歸へらんでも、私の旅裝束を貸して上げるぢやで、直に出立をして下され、お前さんの家へは使で知らせておくよつてにナ……番頭どん、私の旅裝束を此所へ持て来なされ、チャンと皆揃へて……オイくお清辨當を拵へてやつて下され、腹が減ると走れませんよつてに……待ちなされ、今から拵らへて居つては間に合わん、其のおひつを縄で括つて、吊下げて、おかづは、こうこを丸なりで二本ほど……ウンく、其で澤山ぢや……コレ番頭どん、お前さん、氣が利かんぢやないか、何で手を空けてボンヤリ立つて居る、何で脚絆を付けてやんなさん、私が草鞋を付けてやるで、お前も早う脚絆を……」「チヨット旦那さま、草鞋を頭へ括つてお居でやすがな」「頭でも何處でも構はん、こけたら頭で走つて行け、サア甚平さん、早う行て行て下され」と親旦那は半氣狂ひです、甚平さんは頭へ草鞋を付けて、首から胸へおひつを掛けて、ハスカイに香々を吊下げてこのお家を飛んで出ましたが、走つた、走つた、丹波の山へ目懸けて走りました。行く途中で、お腹が空くと、前に吊下がつて居ります、おひつの御飯を掴んで食べる、それで顔中が飯粒だらけになつた。やがての事で日が暮れて、暫くす